

“ナンジャモンジャ”という名前の木があるのをご存知でしょうか。

正式名はヒトツバタゴと言います。細越にある「夢の森」で最初にこの木に出会った時、白く細かい花が木にびっしり咲いていて、とても不思議な感じがし、呪文のようなこの名前がぴったりだと思いました。明治神宮外苑に植えられているものは古くから有名で、名前がわからぬままに“ナンジャモンジャ”と呼ばれていたそうです。



ナンジャモンジャの木
(夢の森)

昨年、元寇^{げんこう}(鎌倉時代、元軍が日本に來襲した事件)のあった湊を見たいと思い、壱岐・対馬の旅に出ました。対馬に着いた時、旅館の主人が韓国を臨む島の北端 対馬市鱒浦^{わにうら}はヒトツバタゴの自生地だという説明をしてくれました。そのヒトツバタゴこそ、“ナンジャモンジャ”だったのです。気になっていた木の名前を聞いたので感激してしまいました。



ナンジャモンジャの花

ヒトツバタゴの自生地は対馬のほかには岐阜県・愛知県だけと思われる珍しい樹木で、市内では園芸種ですが「夢の森」で見ることができます。この「夢の森」は細越の山間部にある広大な森で、ほかにもサクラ、ツツジなどの樹木が繁り、蛍の観察もできる、市民にとって憩いの場です。

ヒトツバタゴの学名「キオナンツス」は「雪花」の意味で、花どきの状態をうまく表しており、6月に白い花で満開になります。



咲き乱れるナンジャモンジャの花

青森の6月は「夢の森」のヒトツバタゴをはじめ、ミズキ、アカシア、カンボク、コデマリ、オオデマリ、リュウキュウツツジなど、爽やかな白い花々が夏へのリレーを展開しています。



カンボク



コデマリ



オオデマリ



リュウキュウツツジ